



師走がやってきました！

12月になるとは思えないほど、暖かい日が続いています。先日、久しぶりに訪れた神野小学校では、児童が広い運動場を縦横無尽に使って、伸び伸びと運動遊びを展開していました。卒園児を見つけようと目を凝らしてみても、体も大きくなりマスクも着用している状況では見つけることができませんでした。（きっといたに違いないのです！）。

その後の会議では、「R4 全国学力・学習状況調査」の結果が報告され、神野小学校は4領域全て全国平均をかなり上回っていることが報告されました。家庭と小学校、こども達を見守って下さる地域との連携がうまく回っていることもその成果にはあるようです。その地域の一端を担う本児童クラブでも、こども達の健やかな成長のために、更にできることを増やしていきたいと思います。

師走、お正月と、日本の伝統文化の伝承も楽しみたいと思います。

☆12月のおたのしみ☆

- クリスマス製作 ○かるた製作
- 戸外活動 等 ○はないちもんめ

12月の学童児童数

	11月末 在籍数	12月 新規人数	12月初日 人数
1年生	11	0	11
2年生	1	0	1
3年生	0	0	0
計	12	0	12

児童の様子

11月は過ごしやすい日が多く、戸外を散策したりサッカーなど体を思いっきり動かして楽しく過ごす事ができました。

また、室内では段ボールやトイレットペーパーの芯などの廃材を使って、忍者の手裏剣や迷路等を作る姿が多く見られます♪特に迷路作りでは、トイレットペーパーの芯を半分に切ったり、長さを変えたりして段ボールに貼り合わせ、「ころころ迷路ができたよ!」「ピタゴラススイッチみたい!」と完成させて喜んでいました(*^-^*)完成した迷路は児童クラブの階段横に飾っており、今でも壊れたときは、みんなで修理したり、「もっとこうしたい」という意見があったときは作り変えたりして、少しずつ変わっています。

お迎えに来られた時など、お時間があればぜひゆっくり見ていってくださいね♪



ゆっくり転がるようにしよう...

転がるかな？



最初は小さいダンボールから始まり、少しずつ大きさを変えていきました♪



◇ 12月の目標 ◇

「身の回りの整理整頓や掃除を頑張る」

今年もあと1か月になりました。子どもたちとはできるようになったことや楽しかったことなどを振り返り、2023年も楽しい気持ちで迎えられように関わっています。その中で4月から過ごしてきた児童クラブの部屋にも感謝の気持ちをもってこれからも気持ちよく過ごせるよう、身の回りのものを片付けたり、自分のロッカーなどの掃除を頑張りたいという意見も出てきました♪12月はお世話になった部屋に感謝しながら整理整頓や掃除を子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思います。

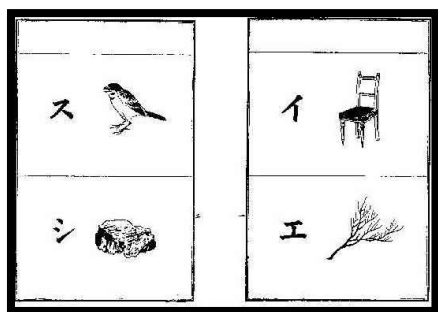
「言葉の育ちを支える文化財の進歩」

西九州大学子ども学部子ども学科 講師 宇賀神一

今回は、幼児期から児童期に差しかかる子どもたちに注目して、言葉の育ちを支える文化財についてお話しようと思います。保育所・幼稚園・こども園を卒園した子どもたちは、桜舞う4月、晴れて小学校に入学します。入学初日の教室では、期待に胸を膨らませあたりをキョロキョロと見回す子がいたり、幼稚園の友達を見つけ駆けだす子がいたり、もしかすると教室の片隅には、緊張で固まってしまっている子がいるかもしれません。

さて、それぞれの思いを抱えながら着席した子どもの前に、各教科の教科書が配られます。ここで問題。そのなかで一番時間をかけて勉強するのは、どの教科書でしょうか？……答えは「国語」です。国語は文字や文章の規則を学ぶ教科で、ほかの教科を勉強するための基礎にもなるため、どの教科よりも多くの時間をさいて学ぶことになっているのです。

これから紹介するのは国語の教科書の最初のページです。しかし、「今」ではなくて「昔」の教科書です。その足跡を辿ってみると、言葉の育ちをめぐる今と昔の興味深い共通点が浮かび上がってくるためです。



日本の小学校国語科では、20世紀のはじめから第二次世界大戦終戦直後まで、国家が作成した教科書だけが使われていました。1904年、まず作られた教科書の最初のページは、上の図のようなものでした。モノクロで、カタカナと絵が並んでいますね。「イ」という文字の横にイスの絵があり、先生はこれで、「みなさん、これはなんの絵ですか?」「イス!!」「そうですね。イスのイはこう書くのです」というようにして文字を教えていったのです。



二つ目の図は、大正デモクラシーを経験し文化レベルが向上した1933年の教科書です。カラー印刷で素敵な桜の絵が描かれています。学ぶ内容も、一文字一文字ではなく、ちょっとした文章になっています。三つ目の図は、終戦直後(1947年)の教科書です。ひらがなから勉強することになり、文章もぐっと長くなっていますね。



ごくごく簡単に国語教科書の歴史を紹介してみました。そこからは、いつの時代もよりよい言葉の育ちが志向され、そのために努力されたことが見えてきます。子どもたちをめぐる文化財はこのようにして今日に至り、今も日々進歩しているのです。